

## 県立高校指定校事業（令和7年度指定） 3年間計画書

学 校 名	横浜氷取沢高等学校 (全・定・通)	校 長 名	坪内 幸子
指定名	グローバル教育研究推進校		
研究主題	グローバル社会の中で主体的に考え、協働する中で、挑戦し続けることができる人材の育成		
3年間の目標 (3年後のめざすべき姿)	グローバル社会における主体性、協働、挑戦をテーマに、以下の通りの教育活動を実施する。 ・国際的な視野を持ち、主体的に考え、探究することができる力を身につける。 ・自らの課題に挑戦し、自己を伸ばし続ける姿勢をもつ力を身につける。 ・多様な価値観を尊重し、他者と協働して問題解決できる力を身につける。		
3年間の 研究内容	<p>(1) 研究主題の設定理由とこれまでの本校における取組</p> <p>本校は、令和2年4月に「英語によるコミュニケーション能力の向上と姉妹校交流を通じた国際教育の推進」、「地域との協働・連携を重視した教育活動を推進し、地域に根ざしつつ国際性豊かな人材の育成」を設置目的として開校した。</p> <p>開校以来、「グローバル社会の中で主体的に考え、協働する中で、挑戦し続ける生徒」をめざす生徒像とし、学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」をはじめとした英語教育の充実、電子黒板と一人一台のタブレット端末を活用した主体的で協働的な学び、国際理解、SDGs をテーマとした「総合的な探究の時間」における系統的な学びと姉妹校交流の推進等に取り組んできた。</p> <p>グローバル教育研究推進校2期目の指定を踏まえ、本校のグラデュエーション・ポリシーに基づく研究主題を設定した。具体的には、英語によるコミュニケーション能力の向上と国際理解教育をより一層推進するとともに、「総合的な探究の時間」を含むすべての教科において、それぞれの教科特性を踏まえ、教科横断的に「グローバル人材に求められる資質・能力の育成」に取り組む指導の研究を行う。</p> <p>(2) 研究の内容</p> <p>①全教科における教科横断的な取組</p> <p>指定3年間の各年度において、「グローバル人材に求められる資質・能力」の育成に向けた「校内授業研究テーマ」を設定し、それぞれの教科特性を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の研究。</p> <p>②英語教育における取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」の英語4技能5領域の力をバランスよく向上させるためのカリキュラムの編成と、その指導と評価の研究。</li> <li>・プレゼンテーションの指導と校内プレゼンテーションコンテストの実施を通じた論理的思考力とプレゼンテーションスキルの育成。</li> <li>・英語外部試験の校内実施(GTEC アセスメント、実用英語技能検定)を通じた英語学習への意識の向上と結果分析による指導の振り返りと改善。</li> <li>・前期と後期に実施する英語学習に関する意識調査アンケートによる生徒の意識の変化の分析を通じた指導の振り返りと改善。</li> </ul> <p>③国際理解教育の多角的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹校交流等(韓国、オーストラリア、ニュージーランド)及び海外修学旅行等を実施することによる文化の多様性や地球規模の諸課題についての体験的理解及び国際的な視野の醸成の促進。</li> <li>・「総合的な探究の時間」では、今日の社会問題をテーマとし、国際的な視野を持って自ら課題を設定し解決策を構想する活動を通して、多様性の理解と協働的な姿勢を深め、未来を切り拓く力を育成する。</li> </ul> <p>④外部教育機関等との連携による教育機会の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携等を活用した外部人材による講演会や、外部団体での体験・実習等の実施。</li> </ul> <p>(3) 成果の検証方法及び成果指標</p> <p>①年度ごとに設定する「グローバル人材に求められる資質・能力」の育成に向けた「校内研究授業テーマ」に基づき、全教科でそれぞれの教科特性を踏まえた指導の研究を行うことができたか。</p> <p>②「魅力と特色アンケート」のうち、「主体的な学習活動を通じて、思考力・判断力・表現力等を高めることができたと思う高校生の割合」が85%以上となることを維持することができたか。</p> <p>③「生徒による授業評価」のうち、次の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上となることを維持することができたか。</p> <p>(1)授業の在り方について、「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。」の質問項目</p> <p>(2)学習の状況について「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。」の質問項目</p>		

	<p>④(1)GTEC アセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFR A2 レベル以上相当を達成する生徒の割合は指定期間内において向上し続けているか。</li> <li>・各学年の生徒のスコアはすべての技能において前年度よりも向上しているか。</li> </ul> <p>(2)実用英語技能検定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上位の級の取得に向けて前向きな生徒の数は増えているか。</li> <li>・目標とする級の取得に向けて英語学習に力を入れる生徒の数は増えているか。</li> </ul> <p>(参考として校内受験の受験者数・合格者数を集計する)</p> <p>(3)英語学習に関する意識調査アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学習に関する意識調査アンケートの「英語を人前で話すことについてどう思いますか」、「英語を書くことについてどう思いますか」の項目において、肯定的な回答の割合が増えたか(含要因の分析)。</li> </ul>	
研究計画の概要	令和7年度	<p>①全教科における教科横断的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研究テーマ「多様な文化や価値観の存在に気づき、相互理解の大切さを学び、他者への関心や共感力を育てる指導の研究」に基づく授業を実施する公開研究授業の実施。</li> </ul> <p>②英語教育における取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度内において複数回、適当な時期にアンケートを実施。</li> <li>・GTEC アセスメント(12月)、実用英語技能検定(年3回)の校内実施と研究。</li> </ul> <p>③国際理解教育の多角的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュージーランド訪問交流、韓国訪問・受入交流、オーストラリア受入交流の実施。</li> <li>・総合的な探究の時間では、課題解決のプロセスと協働・国際理解の姿勢を学ぶとともに、自己理解を深めることによって探究テーマを見出すプログラムを通して、社会で活躍する意識を高め、その基礎となる力を育成する。</li> <li>・ニュージーランド、韓国、オーストラリア、フィリピン等の高校生世代とのオンライン交流。</li> </ul> <p>④外部教育機関等との連携等による教育機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外務省「高校講座」の実施(10月)。</li> </ul>
	令和8年度	<p>①全教科における教科横断的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研究テーマ「異文化にふれ、他者と協働する態度や、対話的に課題を探究する姿勢を育てる指導の研究」に基づく授業を実施する公開研究授業の実施。</li> </ul> <p>②英語教育における取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度内において複数回、適当な時期にアンケートを実施。</li> <li>・GTEC アセスメント、実用英語技能検定等の英語外部検定試験の校内実施と研究。</li> </ul> <p>③国際理解教育の多角的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア訪問交流、韓国訪問・受入交流、ニュージーランド受入交流の実施。</li> <li>・総合的な探究の時間では、自身が見出した探究テーマに対して、国際的な視野を持ってその解決に向けた課題・仮説を設定し調査研究を行うことによって、課題解決の姿勢と能力を育成する。</li> <li>・諸外国の高校生世代とのオンライン交流。</li> </ul> <p>④外部教育機関等との連携等による教育機会の提供</p>
	令和9年度	<p>①全教科における教科横断的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業研究テーマ「多様な価値観を尊重し、主体的に課題に挑む力と協働して未来を切り拓く力を育てる指導の研究」に基づく授業を実施する公開研究授業の実施。</li> </ul> <p>②英語教育における取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度内において複数回、適当な時期にアンケートを実施。</li> <li>・GTEC アセスメント、実用英語技能検定等の英語外部検定試験の校内実施と研究。</li> </ul> <p>③国際理解教育の多角的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュージーランド訪問交流訪問、韓国訪問・受入交流、オーストラリア受入交流の実施。</li> <li>・総合的な探究の時間では、2年間の探究活動の成果を適切かつ効果的に表現しそれを他者と共有することによって、国際社会においてより多角的な視野と協働的な姿勢を持って活躍できる力を育成する。</li> <li>・諸外国の高校生世代とのオンライン交流。</li> </ul> <p>④外部教育機関との連携等による教育機会の提供</p>
研究体制	グローバル教育研究推進チーム(管理職3名、学事・教務G1名、進路支援G1名、国際・連携G2名、外国語(英語)科2名、有志3名)	
その他特記事項		